

平成 26 年 3 月 吉日

各 位

大塚アグリテクノ株式会社

**殺虫殺菌剤「オーベストオリゼ 10 箱粒剤」の新規登録認可のご案内**

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、かねてよりご協力を賜りました殺虫殺菌剤のオーベストオリゼ 10 箱粒剤の農薬登録が平成 26 年 3 月 12 日付にて認可されましたので、下記のとおりご案内申し上げます。

今後とも、皆様のご指導ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

商品名 : オーベストオリゼ 10 箱粒剤 (第 23442 号)

有効成分・% : クロラントラニリプロール・0.75%、ベンフラカルブ・6.0%、プロベナゾール 10.0%

適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントラニプロールを含む農薬の総使用回数	ベンフラカルブを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネシジウム イネトモイムシ イネシガレセンチュウ セジロウカ ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタヒコヤガ コブメイガ いもち病	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5L) 1 箱当り 50g	移植前 3 日～移植 当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	1 回	1 回	2 回以内(育苗箱への処理及び側条施用は合計 1 回以内)

#### 〔使用上の注意事項〕

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使い切ること。
- (2) 育苗箱の上から所定薬量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤を払い落とし、培土に定着させるために軽く散水して田植機にかけて移植すること。
- (3) 苗の葉がぬれていると薬剤が付着して薬害を生ずる場合もあるので、散布直前の灌水はさけること。
- (4) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので必ず健苗を用いること。
- (5) 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので代かきは丁寧に行い、移植後は湛水状態（湛水深3～5 cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出したりしないよう水管理に注意すること。また、深植にならないように注意すること。
- (6) 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合には使用をさけること。
- (7) 本田への移植後低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合は使用をさけること。また、移植後極端な高温が続くと予測される場合も使用をさけること。
- (8) 本剤を誤って過剰に使用すると生育初期の葉の黄化や生育遅延などの薬害を生じるおそれがあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を守ること。
- (9) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

#### 〔安全使用上の注意事項〕

- (1) 誤食などのないよう注意すること。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。  
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けること。
- (2) ベンフラカルブによる中毒に対しては動物実験で硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されている。
- (3) 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- (4) 散布の際は農薬用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- (5) 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- (6) かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。
- (7) 夏期高温時の使用を避けること。

[水産動植物に関する注意事項]

- (1) 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。
- (2) 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (3) 移植後は、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- (4) 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

[貯蔵上の注意事項]

直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。